

月例研究会「香川大学留学生の生活実態について」報告



日時：2007年10月31日（水）

場所：香川大学

参加者：44名

香川大学では現在、およそ170名の留学生が在籍しています。1989年以来、香川大学は留学生を対象に「生活実態」のアンケートを実施して来ています。目的は留学生の生活及び勉学状況、周辺の住民との交流について調査します。しかし、アンケートを実施しても、報告書のみをまとめてその後のフォローアップはしていませんでした。本年10月31日（水）に、JAFSAの共催で、香川大学は始めてアンケートからとったデータを基にしてシンポジウムを行いました。アンケートは昨年10月11日～11月17日にかけて実施しました。

本アンケートの目的は、留学生の声に耳を傾け、改善すべきところがあるかどうかを大学内外の関係者に公開しました。勿論問題はすべて改善出来るとは言えませんが、まず留学生の状況を大学のスタッフ及び学生、地域住民に周知し問題意識が高まることを願っています。

シンポジウムの参加者総数は44名でした。その内訳は留学生が7名、大学関係者は30名と地域住民は7名でした。プログラムに関しては、最初、本学の留学生センター教員がアンケートの流れや背景を紹介した後、学習編及び交流編、生活編で発表をしました。引き続き、各学部からの教員がそれぞれの状況に関して言及しました。

中でも、もっとも深刻なのは、言うまでもなく、学習に関する事項であります。他大学も同様の事情を抱えているかと思いますが、指導教員とのやり取りがうまく行かないケース

が多数ありました。これは後ほどにも出て来ますが、殆どの原因はコミュニケーションのズレから生まれて来た問題であります。また、留学生の大半の悩みは当然ながら学問に関するものであります。実際に相談相手になってくれるのは、指導教員あるいは教員ではなく、家族あるいは友人であります。学問上、もっとも深い関係であらねばならない教員とのコミュニケーションが不足していることが問題であります。

次に、教員との交流面について、不足しているあるいは満足していないと答える留学生はかなり大勢います。この点に関して、留学生がどのような交流を望んでいるかということは明確になっていません。厳密にいうと交流だけの問題ではなく、チューターとの交流もよく取れていないケースが多いようです。言い換えると、チューター制度がうまく機能していない例が多くあり、この制度をめぐる、ディスカッションの時、多数の意見が寄せられました。

生活上では、宿舎の問題が一番取り上げられていました。本学は4つのキャンパスに分かれていて、典型的な分散型の大学です。地方大学でもあり、事実上予算の制限も厳しいため、留学生宿舎は32室の単身用室しか用意出来ていません。立地はどちらのキャンパスからも遠いので、留学生からかなりの苦情が出ています。全国の状況を見ても、75%の留学生は民間のアパートを使用しています。本学の状況はこれによく似ていますが、早急に留学生用の部屋数の確保を考えなければいけないと思います。

ロン リム (香川大学)